

直前東大世界史発展演習

【2 回目】



問題

第 1 問

解答

オスマン帝国の衰退に伴いオーストリアとロシアがバルカン半島での影響力を強めた。オーストリアは17世紀末にハンガリー、ベルリン会議でボスニア・ヘルツェゴヴィナを支配下へ置いた。19世紀に独立したギリシア・セルビア・モンテネグロ・ルーマニアは、南下政策を進めるためにパン＝スラヴ主義を掲げるロシアの影響下に置かれた。オーストリアと三国同盟を形成するドイツは3B政策を掲げバルカン進出をめざした。青年トルコ革命の影響で1908年に独立したブルガリアは、二度に渡るバルカン戦争後においてセルビア・ギリシアと対立しドイツへ接近していく。第一次大戦後はオーストリアの解体で成立したユーゴスラビアをはじめ、多くの国でロシア革命の影響を恐れる支配層が軍事独裁体制をとり、ヴェルサイユ条約によって国境線の決定に関与したフランスの影響が強くなった。第二次大戦中は多くがドイツの支配下に置かれたが、戦後はソ連の衛星国として各国に社会主義政権が成立した。ギリシアだけはトルーマン宣言を発したアメリカの影響で西側陣営にとどまった。(448字)

解説

“民族”という人間が造り出した最もバーチャルなリアリティは、20世紀の世界にとめどなく戦乱を生み出した。アジアやアフリカなど独立を勝ち取ろうとする諸地域の政治指導者が殺戮も平気で行えるほどの魅力をもつ“民族”という幻想（意識）を芽生えさせなければならないことは理解できなくはないが、民族意識などないほうが人類は幸せではなかったか、という問いはやはり現在を相対化する視点として一定限度は有効であろう。

山川出版社は1997年春から世界史リブレットをシリーズとして発刊している。簡単に読むことができるので、おすすめである。本問は、『バルカンの民族主義』（柴宜弘：東大教授）を参考にして作成した。バルカン半島については1990年代になって、やはりユーゴ解体が大きな背景だろうが、発刊ラッシュが続いた。その中でも高校生が読みやすいものといえば（この高校生というのが曲者、歴史に興味があるという意味ではピンからキリまでいるから、枕詞と受け取ってほしい）『バルカン～ユーゴ悲劇の深層～』（加藤雅彦、日本経済新聞社）や古典的名著である『バルカン』（芦田均、岩波新書）。ちなみに芦田均は総理大臣経験者と同一人物である。著者が非日本人のもの（訳書）はやけに細かすぎるといった感がある。

さて、まずは問題文の読み取りと簡単な事実の確認から。近代以前における「共生」の歴史とは、ミットのことを思い出してもらおう。オスマン帝国では能力を重視し、トルコ人でなくても要職につくことができたことは最近とみに強調されている。オスマン帝国については『オスマン帝国の時代』（林佳世子、山川出版社 世界史リブレット）『オスマン帝国 イスラム世界の「柔らかな専制」』（鈴木董、講談社現代新書）などが参考になるだろう。

問題の主要求は「この地域に影響を与えた大国の動向」であって、「自立をめざす動き」の方に重点をおくと事実をしっかりと覚えている人ほど字数が足りなくなってしまう（バルカンには多くの国があるので）。しかも「16世紀」から「1940年代」までという時間の長さもある。

最初にしっかりと構想を練っておかなければ大幅に字数が足りなくなるだろう。字数が少ないということは知識量が少なくても書けるというものではない。何を書くかということを取捨選択する能力が求められていると考えてみたい。ありきたりの用語説明や簡単なストーリーは授業の解説で行われるであろうし、自分で調べることもできる。ここでは解答例に対する解説にとどめておく。以下①は解答例の1行目を意味している。前置きの最後として「バルカン」という地名がどこからになるかということだが、様々な見解が過去に出されていたが、現在はオスマン支配下におかれたヨーロッパという理解が妥当とされている。そうするとハンガリー(1526～1699年までオスマン治世下)やダルマティア(アドリア海沿岸)の扱いが微妙になる。この問題では含めておいた。

①で大きな動きを表現した後、具体的に②～⑤で述べてある。ここを短くするのがポイントになるであろう。知っていることをこれでもかと書けばハマってしまう。3B政策が指定語句にあるためドイツのことについて触れることはできているであろうが、ブルガリアとからめて(⑤～⑦)文章が事実羅列にならないようにしたい。どうしても我々は列強(大国)が小国を左右しているように歴史を見がちだが、バルカンにおいてはその逆のイメージが強い。問題文にもほのめかしておいたが、影響力をもちたい大国を小国が利用しようとしている側面がある。第一次世界大戦はまさにこの結果であった。それだからこそ当時の首脳はだれもが第3次バルカン戦争が始まったくらいにしかとらえていなかったのであろう。

戦間期のバルカンについてまずオーストリアの支配から脱したことを⑦～⑨であらわしたが、このあたりは書いていない人も多いと思う。指定語句にユーゴスラビアを入れておいたのだけでも。東大の1997年度入試ではこのあたりについて、「少数民族」の指定語句を用いる問題があったはずだ。このことを思い出せばバルカンを含め東欧諸国がヴェルサイユ体制に不満を抱いていたことは認識できる。第二次世界大戦に際して、バルカン諸国にファシズム政権が成立する背景をここに見つけることは容易である。この時期の状況を簡単に説明すると、ハンガリーがトリアノン条約で領土を多く削られてしまった。1919年にハンガリー＝ソビエト共和国が成立したときはルーマニアが鎮圧する。その後のハンガリーの膨脹に備えるための小協商(チェコ・ユーゴ・ルーマニア)がフランスの援助で結成される(この語は字数の都合上解答例には書けなかった)。現在セルビアの中でもヴォイヴォディナ自治州はハンガリー人(マジャール人)が多数を占めているし、ルーマニアでもマジャール人の少数民族問題は今でも顕在化している。第二次世界大戦中のユーゴスラビアの動きは、ボスニア紛争の原点をたぐる上で重要な時期となっている。クロアチアで行われたセルビア人狩りは、ナチスのユダヤ人対策と並んで言葉で言い表すことができない事実であった。

⑩・⑪で第二次世界大戦後は簡単に触れた。もちろんギリシアが共産圏に含まれなかったことを知らなければ、⑪のトルーマン宣言は使ったことにならない。戦後史も簡単にふれておくと、バルカン諸国は最終的に冷戦が終結する1989年までの間、ブルガリア以外はソ連離れの姿勢をいずれも見せた。ユーゴスラビアのティトーが1948年にスターリンと対立し、ハンガリーは56年にソ連軍の介入をうけたナジ＝イムレのことを思い出そう。ルーマニアはチャウシェスク時代の1960年代半ばから、そしてアルバニアも中ソ対立のからみから中国側へ接近していく。

【配点の目安】（配点 34 点）

- ① 17 世紀末にハンガリーをオーストリアに割譲した… 3 点
- ② ベルリン会議でボスニア・ヘルツェゴヴィナを支配下に置いた… 3 点
- ③ 南下政策を進めるロシアはパン＝スラヴ主義を採った… 3 点
- ④ ギリシア・セルビア・モンテネグロ・ルーマニアはロシアの影響下に置かれた… 3 点
- ⑤ オーストリアと三国同盟を形成するドイツが 3 B 政策を掲げて進出した… 3 点
- ⑥ 青年トルコ革命の影響でブルガリアが独立した… 3 点
- ⑦ バルカン戦争を経てセルビア・ギリシアと対立したブルガリアはドイツに接近した… 3 点
- ⑧ 第一次大戦後、ユーゴスラヴィアが独立した… 3 点
- ⑨ 第一次大戦後、フランスが影響力を強めた… 2 点
- ⑩ 第二次大戦では、多くの国がドイツに占領された… 2 点
- ⑪ 第二次大戦後は各地にソ連の衛星国が生まれ、社会主義政権が成立した… 3 点
- ⑫ トルーマン宣言によってギリシアは西側陣営にとどまった… 3 点

第 2 問

解答

問(1) 絶対王政を倒そうとする動きがフランスの七月革命と二月革命に触発されて各地で起きた。1848 年を境に各国が国民国家へ移行するが、民衆の政治参加は制限されたケースが多かった。(83 字)

問(2) 選挙権の拡大と保険制度の拡充といった社会福祉政策により、労働者の国家への帰属意識高揚が図られた。また、帝国主義政策の下で対外進出を進める風潮と反ユダヤ主義などの人種差別が生まれた。(90 字)

問(3) ロシア・ドイツ・オーストリアでは君主政が倒れ共和政へと移行する革命が起きた。総力戦時の社会進出を受けイギリスでは女性に選挙権が与えられた。ドイツでは労働者の権利が憲法に明記された。(90 字)

問(4) 中国・インドネシア・ヴェトナムで独立運動を進めたのが共産党であったことから、元来、ナショナリズムを否定する共産主義思想が、植民地支配を脱するナショナリズムとして受容された。(86 字)

解説

問(1) フランス革命とナポレオンのヨーロッパ支配が各地にナショナリズムを広めることはよく知られている。ウィーン体制下ではこのナショナリズムが各地で芽生える。ウィーン体制初期にはロシアのデカブリストの乱、ドイツ統一をめざすブルシェンシャフトの運動、イタリアのカルボナリによる革命運動、ギリシアの独立運動がおこった。フランス七月革命の影響としてはベルギーの独立、マジャール人の独立反乱、イタリア統一をめざす青年イタリアの結成がよく知られている。イギリスにおける選挙法改正もナショナリズムにもとづく動きといってよい。1848 年にフランス二月革命がおこると、その影響はヨーロッパ全体に及んだ。事例は各自の復習にまかせる。ナショナリズムを否定しようとする動きはここでおわる。したがって、問題文における「いかなる帰結」は 1848 年の意義を書くことになる。「いかに展開され」という部分を具体的な例をもって書くことは字数の都合上できないことはわかるであろう。「絶対主義を倒す動き」ということが明記されていれば問題ないであろう。

問(2) 1848 年以後のヨーロッパの動きを簡単にまとめる必要がある。選挙権の拡大の話だけはしっかりと書かなければならないが、ここでも、具体例を書く字数はない。イギリスの労働組合法、ドイツの社会保険制度といった労働立法が制定されたことも書きたい。この時代のナショナリズムは対外進出といった意味合いが付加されてくる。国民国家が成立するにつれて、国家主義の意味合いがでてくるということだ。排外主義の風潮もみられることは、教科書における「帝国主義」の項を読めば必ず記されている。

問(3) 第一次世界大戦という未曾有の総力戦がヨーロッパに多くの変動を生んだことはいうまでもない。総力戦とはなにかを簡単に確認させる問題である。

君主政が倒れ共和政になる例としてはロシアが当然有名だが、ドイツ・オーストリアも知っておかなければならない。女性参政権の話は総力戦における工業力を女性が支えるという話から思い出せるはず。ドイツにおけるヴァイマル憲法の内容、つまり、労働者の権利が

明記される話はロシア革命における影響でおさえておきたい。

問(4) 時期は戦間期で東アジア・東南アジアだから、中国共産党、中国国民党、インドネシア共産党、インドシナ共産党を思い出せば何とかなる。以上の例の中で中国国民党を除けば、すべて共産党である。ここから、ナショナリズム＝共産主義というヨーロッパでは元来矛盾すると思われる2つの考えが結びつくことをかけばよい。アジアにおけるナショナリズム＝独立運動＝反帝国主義運動＝ソビエトの外交方針＝共産主義ということになる。この背景には1919年のパリ講和会議で民族自決が裏切られたことがある。もちろん、ソ連とてコミンテルンを使ってアジアのナショナリズムを「世界革命」＝ソ連の覇権戦略に利用することしか考えてないために、アジアの共産党の運動方針はソ連に翻弄されることになる。

【配点の目安】（配点 36点）

問(1)（9点）

- ① フランスの七月革命と二月革命に触発された…3点
- ② 1848年以降国民国家へと移行した…3点
- ③ 但し、民衆の政治参加は制限されたケースが多かった…3点

問(2)（9点）

- ① 労働者の国家への貴族意識の高揚が図られた…3点
- ② ①のために選挙権の拡大、社会福祉政策が行われた…2点
- ③ 帝国主義政策の下で対外進出が展開された…2点
- ④ 反ユダヤ主義など人種差別が生まれた…2点

問(3)（9点）

- ① ロシア・ドイツ・オーストリアでは君主政が倒れ共和政へと移行した…3点
- ② 女性が社会進出し、参政権が与えられた…3点
- ③ ドイツでは憲法に労働者の権利が明記された…3点

問(4)（9点）

- ① 元来、共産主義思想はナショナリズムを否定するものであった…3点
- ② しかし、中国・インドネシア・ヴェトナムで共産党が独立運動を進めた…3点
- ③ このため、共産主義思想が植民地支配を脱するナショナリズムとして受容された…3点

第 3 問

解答

問(1) 仰韶

問(2) (a) 唐三彩 (b) ニハーヴァンドの戦い

問(3) シトー修道会

問(4) (a) モノモタパ王国 (b) (グレート) ジンバブエ遺跡

問(5) フランソワ 1 世

問(6) (a) 『農政全書』 (b) マテオ＝リッチ

問(7) マルサス

問(8) ハイチ (フランス領サン＝ドマング) の独立

問(9) (a) ユゴー (b) ロマン主義

問(10) (a) スタインベック (b) 農業調整法

解説

問(1) 正解は仰韶 (ヤンシャオ)。漢字が正しく書けているか注意。「シャオ」の字の偏は、「音」である。中国の河南省に位置する仰韶で、1921 年にスウェーデン人アンダーソンが、彩陶を特色とする遺跡を発掘した。

問(2) (a)の正解は唐三彩。緑・褐色・白の彩色をほどこした陶器で、そのほとんどは副葬品として用いられた。唐代は国際色豊かな文化が育まれた時代で、その背景として諸外国との文化的交流が盛んであったことが挙げられる。とりわけ、ササン朝の影響をうけて金工や陶芸に新様式がもたらされた。唐三彩の水瓶や酒杯には、ササン朝の金属器の模倣が指摘される。以上より、ササン朝を滅亡に追い込んだ(b)ニハーヴァンドの戦いが示せばよい。

問(3) 正解はシトー修道会。フランス中部のシトーで創設された修道会で、開墾運動で活躍した。13 世紀初頭に成立する都市に活動を基盤とした托鉢修道会 (フランチェスコ修道会・ドミニコ修道会など) と混同しなかっただろうか。ベネディクトゥスの会則を厳密に守る共同体を作ろうとした彼らは、祈りと労働を重視し禁欲的な生活を送り、修道院は人里離れた場所に建てられた。

問(4) (a)の正解はモノモタパ王国。遺跡からは中国の物産も出土しており、当時のインド洋における商業ネットワークの広がりを物語っている。(b)正解は (グレート) ジンバブエ遺跡。この遺跡の成立に関しては様々な見解があるが、8 世紀ごろこの地に進出したバントゥー系民族によってつくられた石造建築遺跡であると推測されている。第二次世界大戦後、ローデシア (もちろん、この語の起源はケープ植民相セシル＝ローズに由来する) の白人政権が崩壊した後、黒人政権がこの遺跡の名にちなんで国名をジンバブエと改称している。

問(5) 正解はフランソワ 1 世。彼がレオナルド＝ダ＝ヴィンチを招いた事実を知らなくても、16 世紀前半のフランスの君主というところから推測可能。神聖ローマ皇帝カール 5 世との対立上、オスマン帝国のスレイマン 1 世とも接近を図ったことはよく知られている。

問(6) (a)正解は『農政全書』。刊行は 1639 年で、著者の徐光啓は既に死去 (1633 年) している。この書物の中には、新大陸原産の作物も記されており、大航海時代の影響が中国にも及んで

いたことがうかがえる。(b)正解はマテオ＝リッチ。明末の中国に訪れたイエズス会士で、キリスト教・ヨーロッパの学術・文化を中国に紹介した。彼が紹介した世界地図に基づき『坤輿万国全図』が作成され、エウクレイデスの著作も『幾何原本』として翻訳されている。万暦帝に拝謁して中国全土での布教を認められ、以後のイエズス会士が中国で布教する道を開いた。

問(7) 正解はマルサス。主著である『人口論』で、人口は倍数的に、食糧は乗数的に増加する傾向があり、人口が食糧生産を大きくうわまわる速度で増加するならば、人口増は飢饉・疫病・戦争を引き起こすことを示した。以下は余談だが、穀物法に関しては、穀物が高価格で推移することが農業投資を拡大し、地代を増加させて製造品への需要を喚起するために有効だとして、穀物法反対の姿勢をとるリカードと論争を展開した。

問(8) フランス領サン＝ドマングは、18世紀において、カリブ海有数のさとうきびプランテーションが展開された地であった。しかし、フランス革命の影響を受け、1791年より黒人主導でサン＝ドマングの独立運動が勃発する。サン＝ドマングは、1804年に黒人共和国のハイチとして独立を果たすが、この独立運動の過程でさとうきびプランテーションは壊滅的な打撃を受けることとなった。その結果、さとうきびプランテーションはスパイン領キューバへと移行した。

問(9) (a)正解はユゴー。作品が『レ＝ミゼラブル (ああ無情)』であると分かれば容易なはずである。(b)正解はロマン主義。18世紀に支配的であった理性中心の啓蒙思想への反発として生まれた潮流である。理性より感情、現在より過去、完成された調和より躍動する個性、普遍的な人類より固有の歴史を有する民族を尊重した。中世への憧憬という点では伝統を重んじる保守主義に、ロマン主義的な情熱と革命を結びつけると自由主義・ナショナリズムにも通じていく。

問(10) (a)正解はスタインベック。『怒りの葡萄』という著作名から想起できなくてはならない。(b)正解は農業調整法 (A A A)。工業面における全国産業復興法 (N I R A) とともに、従来の自由放任政策に代えて、国家による経済への介入・統制を図ったものである。農業調整法は36年、全国産業復興法 (N I R A) は35年に違憲判決を受けている (N I R Aの一部はワグナー法として復活している)

【配点の目安】 (配点 30点)

問(1)(3)(5)(7)(8)…各2点

問(2)(4)(6)(9)(10)…各4点 (枝間は各2点)



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--